

授業概要

日本の現代社会では、特定の教団に対して主体的信仰を持つ人々は少数派となり、宗教団体に関わる事件などから、いわゆる「宗教」に対して否定的イメージを持つ人々も増加傾向にあると言われている。

しかし、習慣的に行われる初詣や節分などの年中行事や、「占い」などいわゆる「聖なるもの」に関心を持つ人々が存在するのもまた事実である。加えて、現代日本社会には世界の様々な文化的背景をもつ人々も共に暮らしている。

ここから、この授業では、基本的な宗教学の理論・見方を学んで、客観的に宗教を理解する視点について講義する。データを用いて世界・日本における宗教の状況について確認した上で、世界三大宗教の特徴や現代社会に生きる我々の習慣の背景にある宗教行動や民俗的信仰について学べるよう講義する。その上で、具体的事例に即しながら宗教学の重要トピックを取り上げ、人間生活と宗教の関わりについて理解を深める。

授業計画

第1回	ガイダンスおよび世界の諸宗教の状況と宗教の歴史
第2回	宗教の種類・分類と世界・日本の宗教状況
第3回	宗教をどのような立場で見ると？～宗教学という視点について
第4回	世界の三大宗教① 唯一神教の伝統 その1 (ユダヤ教からキリスト教へ)
第5回	世界の三大宗教② 唯一神教の伝統 その2 (イスラーム)
第6回	世界の三大宗教③ 仏教
第7回	儀礼と祭り～通過儀礼とお盆・夏祭
第8回	修行と戒律～日本仏教にみる修行と戒律
第9回	神話～様々な神話と現代におけるその姿
第10回	祈り～その諸相と浄土信仰・念仏
第11回	死後の世界①～日本中世の浄土信仰と死者儀礼
第12回	死後の世界②～近現代における死の問題
第13回	シャマニズム～日本におけるシャマニズムの特長と成巫過程
第14回	聖地巡礼～聖地の特長・巡礼の構造・四国遍路
第15回	授業の総括
第16回	定期試験

到達目標

- ・宗教学の見方を学ぶことにより、宗教学の重要テーマについて知識と理解を深めることができる。
- ・宗教学的視点から、様々な宗教文化について説明できる。
- ・私たちの身近な習慣となっている年中行事・宗教行動とその背景について説明できる。

履修上の注意

- ・講義で使用するプリント類は事前にアップロードする。
- ・遅刻は減点対象とする。

予習・復習

- ・予習について～教科書の該当部分を事前に読み、予習すること (ガイダンスで説明する)。
- ・復習について～講義後には、プリント類やメモ、紹介した参考文献等を用いて復習すること。

評価方法

①授業課題の提出を含む平常点 (30%)、②小レポート (30%)、③定期試験 (40%)

テキスト

石井研士『プレステップ宗教学 (第3版)』弘文堂、ISBN: 9784335001529